

令和 8 年度「市民と議会の意見交換会」記録用紙

(2 9 日) 班名 : 第 1 班

テーマ 「子育て支援」「高齢者施策」「公共交通」について

開催日時	令和 8 年 9 月 2 9 日 (火) 1 6 時から 1 7 時半
開催場所	港西コミュニティセンター
出席議員	司会 : 村上雅彦議員 記録 : 戸水議員
参加者名	竹内美和 坂本淳一 新谷裕香
話し合い の項目等	子育て支援 高齢者支援 公共交通

質問、意見、回答	質問意見等の要旨及び回答の要旨等
子 育 て 支 援	防災ラジオ ・避難をさせなければいけない子どもたちを抱えている所には、こまめに情報を流してほしい。子どもたちに対する安全を確保する意味でも、学校や保育園などには優先して連絡を入れてほしい。 ・カムチャッカで地震が発生した際、「いつ注意報・警報に切り替わるのか」を市役所に確認したが、市側でも把握できていないとの回答だった。そのため、現場で防災ラジオをつけても「注意報が出ている」という最低限の情報のみで、市ホームページや公式ラインにも更新なし、という状況の中、必要な判断材料が得られないまま保育を続けざるを得なかった。 ・地震が起きても、保育中・給食中・おやつ中・0 歳児の抱っこや寝かしつけ中など、一瞬で避難行動に移れない状況が常にある。建物が古く、揺れを感じると「倒れてきたらどうしよう」という不安がよぎる中、保育士同士で「今の揺れは何だったのか」「避難すべきか」をテレビやスマホで必死に確認しているのが現状である。 ・防災のために配布されている防災ラジオは、常時つけているわけではない。震度 1・2 では情報が流れない。過去に「震度 1・2 で流すとうるさい」と言われた経緯があるようだ。しかし保育現場では、テレビをつけられない時間帯が多く、ラジオが唯一の即時情報源になる。揺れを感じた瞬間に、「今のはどの程度の地震なのか」「津波の可能性はあるのか」が分からないまま数分過ごすことは、子どもの安全確保の観点から極めて不安が大きい。 寿公園の草刈 ・公園の草刈について聞いてみたら「いつになるか分かりません」と言われた。多分、ブランコを新しくしてくれたが、そこに行くまで草だらけで小さい子はいけない。 ・公園の遊具が撤去されると何にもなくなる。遊べない状態になっている。また、高砂公園は整備されているが、大きい子がいると遠慮してしまう。親子教室をしていても、お子さんが小さいと人見知りして入って行けなかったりする。

	設備がしっかりしているところは混んでいる。「ちゃいるも」もあるが、晴天の時は外で遊ばせたいと思う。潮静公園や見晴公園は遠くて行けない。 放課後の居場所 ・児童館は子どもを見ってくれる先生がいないので、子どもを受け入れられる人数が限られていて、「何月何日は遊べる日」と決まっている。学年が過ぎると自由来館になる。 また、放課後等デイサービスも入れる人数が少ないため、利用できる日数が決まっている。子どもたちに個性があるときには制限があり、児童館の方へ行きたいと思っている親御さんもいる。そのため親御さんは工夫をして、「月水金はここ、火木はこっち」と場所を変えて利用しているが、子どもたちの居場所を増やしていただけたらと思う。
高 齢 者 支 援	介護タクシーについて ・公共交通では 70 才以上にはバスの無料券があり、身障者にはタクシーの 1 割引制度がある。動けない人が利用できる福祉タクシー券のような取り組みはできないか？動ける 70 歳以上は良いけれど、動けない 70 歳以上への支援の差があるので考えてほしい。利用しやすい何かがあればよいと思う。 支援を受けていない人 ・要支援の方が、ヘルパーさんが足りないからと支援を断られる。要支援、要介護認定を受けられた方はまだよいが、支援が必要でも、年齢など理由があって支援を受けられない人がいる。その人たちをどう救っているのか？民間サービスや地域の人たちみんなで助け合うことが必要だと思う。旭川では自費のサービスもある。助け合えばいいと思う。 ・一人暮らしの方が息子さんの住む地域に呼ばれても、一人で留萌にいる。なぜかと聞くと、町が好き、みんなが助けてくれるからと、話されている。そういう方への、公的なサービスはないのか？ ・デマンド交通等に投資するより、今ある制度を充実させる方法もあるのではないか。 ・こうしたらもっと良くなるという点では、足りないことはいっぱいあるが、今あることに目を向けて、どうしたら利用しやすくするかということを考えてほしい。視点を変えて、ないものはないので、今あることが減っていかないようにしてほしい。生きやすい社会を作りたい。
公 共 交 通	バスの便数減 ・バス停のそばで店をやっているが、バスが減っていることがお客さんの負担になっている。便数を増やせないか？バスが減っているがタクシーで帰るわけにもいかない。地方バスがものすごく減っている。それでも増毛・羽幌は 1 時間から 1 時間半に 1 本ある。市内バスは 20 分から 30 分おきに 1 本あれば良いと思っている。 ・高齢者はバスの便数が少なくなって、買い物に出るのが大変になっている。 ・体が不自由になってから車を手放してしまった。そのため、自由に移動するにはタクシーを使わなければいけない。自宅からバス停までの距離の問題や、タクシーはお金がかかるという問題がある。昔走っていたバス路線を、もう一度走らせてほしい。

バス停の位置

- ・バス停が遠くて、バス停に行くのも大変。留萌市には市役所にバス停がないが、バス停を市役所に持って行けないか。いろいろな自治体に住んで、市役所にバス停がない市は留萌しかない。とても不思議だった。
- ・バス停まで歩いていけなくて、介護タクシーを利用して5年ぶりに外に出たという方がいた。

デマンドタクシー

- ・デマンドタクシーについて現在検討されているということだが、運転手はだれがやるのか。
- ・増毛にはアップルタクシーがある。デマンドタクシーに支援をされるのか、安い車が走ると、小鳩タクシーは大丈夫か、運転手の確保など気になる。

福祉タクシー

- ・福祉タクシーは車椅子やストレッチャー、子どもでもタクシーに乗るしかない時には乗れる。ただ、経済力がないと利用が難しい。